

平成 24 年 12 月 13 日

各位

会 社 名 アンジェス MG株式会社
代 表 者 代表取締役社長 山田 英
(コード番号 4563 東証マザーズ)
問合せ先 代表取締役副社長 村山 正憲
電話番号 03-5730-2641

**「PLGAナノ粒子技術を用いた核酸医薬の経口DDS製剤化技術の開発」の
産学共同開発発表が粉体工学会・秋期研究発表会で技術賞を受賞**

当社は、ホソカワミクロン株式会社（本社：大阪府枚方市／代表取締役社長：宮田清巳、以下ホソカワミクロン）を中心とする『核酸含有PLGA ナノ粒子技術を用いた経口DDS製剤の研究開発』の産学共同開発プロジェクト《森下仁丹株式会社（本社：大阪府中央区／代表取締役社長：駒村純一）、大阪大学大学院医学系研究科（森下竜一教授）および愛知学院大学薬学部（山本浩充教授）》に参画し、「難治性炎症性腸疾患」の根治を可能にする治療薬の開発に取り組んで参りました。この度、本取り組みで得られた成果を、粉体工学会2012年度 秋期研究発表会において発表し、技術賞を受賞しましたのでお知らせいたします。

次世代薬剤と期待される核酸医薬はDDS（ドラッグデリバリーシステム）化のための研究が進められています。

患者様のQOLの観点からも、経口投与で利便性の高い「核酸医薬の経口製剤」は究極のDDSですが、これまで成功例はありませんでした。今回、各社のコア技術（PLGANANOSFUEA、シームレスカプセル及びNF-κBデコイオリゴ）を融合し、核酸医薬の経口DDS製剤化に必要な基盤技術の開発に成功しました。

本発表はホソカワミクロンが代表し発表いたしました。本受賞は、「核酸医薬品の経口製剤化」という目的を実現するため、各機関が協力して進めてきた研究成果の一つになります。「難治性炎症性腸疾患」の根治治療として将来性が高いと期待が持たれている分野であり、早期の実用化を目指した取り組みを進めて参ります。

本件による本年度業績への影響はありません。

<開発の背景>

1) 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）は、10 代後半から 30 代前半の男女によく発生し、消化器系粘膜のびらん・潰瘍によって下血、下痢、腹痛を多発させる病気で、治療としては、自己免疫異常を抑えたり、炎症を抑えたりすることはできても、多くの場合、発症－治療を繰り返した後、大腸摘出手術も避けられない場合があります。

2) この対策として、近年、抗体医薬が開発され、世界約 100 カ国で 125 万人以上（国内約 10.5 万人）の人達がこの治療の恩恵を受けていますが、病院での点滴が必要で、治療費が高く、根治も難しい場合があることから、患者負担を軽減し、かつ安全で安価な根治療法の実現が切望されています。

<世界初の根治を可能にする「核酸医薬を用いた経口DDS 製剤」の開発>

・上記の背景から、当研究グループ（産学5者）は、互いの独自（特許）技術を持ち寄り、先端的治療薬である『核酸医薬』（当社のNF- κ Bデコイオリゴ）、『ナノDDS 技術』、および『腸溶性シームレスカプセル化技術』を組み合わせることによって、患者に大きな負担を掛けず、安全で安価な根治医薬の実用化を目指した開発を進めております。

以上